

シラバス参照

開講年度	2016
科目名	コンピュータと経済学2
職名／担当教員	経済学部 教授 望月 宏
期間／曜日／時限	後期 水曜日 4時限
開講区分／校舎	一部生田／生田
配 当	E 2 3 , W 2 3 4
単 位	2

講義内容	<p><到達目標> コンピュータシステムを活用し、経済学の理解と経済分析に応用する力を涵養できる</p> <p><講義概要> 現代の経済社会の分析には多くの経済データを利用することができるようになり、それとともにこれらを迅速に処理するコンピュータが様々な分野で活用されるようになった。コンピュータシステムの理解と、それを利用した経済分析の手法を学ぶことはますます重要になりつつある。授業はコンピュータシステムの理解、表計算言語の習得に始まり、経済理論（定義、限界概念など）、統計学、数学の理解の上に行った経済分析を行うため、内容が多岐にわたる。具体的には科学的分析の理解、回帰分析の原理と経済分析への応用を学ぶ。なお、独自掲示板を授業におけるコミュニケーション、情報の収集、発信に積極的に活用する。</p> <p><講義計画> 第1回 情報インフラとしてのインターネット 第2回 情報倫理 第3回 コンピュータシステムの技術動向の未来 第4回 科学的分析の基礎 第5回 基礎的統計値 第6回 相関分析 第7回 原因と結果 第8回 最小二乗法、回帰分析の基礎 第9回 単回帰分析 第10回 母集団とサンプル、統計的推論、検定 第11回 重回帰分析 第12回 重回帰分析の経済分析への応用 第13回 重回帰分析の経済分析への実践 第14回 学生による発表 第15回 後期のまとめ</p> <p><教科書・参考書> コンピュータシステム論、経済分析のコンピュータシミュレーション、産業連関分析、リアプログラミングに関する資料を提示</p>
成績評価方法・基準	全回出席と真摯な授業態度を原則とした上で、毎回の授業のまとめ、論考、および課題をネット上へ提出(80%)、小テスト、授業での発表(20%)により判定する。
履修上の留意点	<p><受講前提条件・関連科目> 予習として、授業内で提示される資料を読んでおくこと。また、復習としては、授業用の私の研究室の掲示板に「毎回の授業のまとめ、感想、課題への回答、質問」を提出することによって行われる。 「コンピュータと経済学1」（前期授業）を履修していることを原則とする。「コンピュータと経済学1」、同「2」の両講義を履修することを基本とする。 コンピュータの操作の授業ではなく、コンピュータを道具として経済学、および経済分析の理解を深めるための授業であることに注意。マクロ、ミクロの経済原論、経済数学、統計学の授業との関連が深い。</p>
担当教員へのアクセス	メールによる (mochizukiphd@gmail.com)

その他	前期「コンピュータと経済学1」初回授業時に履修希望者の手続きを行うので、必ず参加すること。
更新日付	2016/02/10 21:15